# はるかな尾瀬

2008.11 vol.7
(財)尾瀬保護財団

## 尾瀬のミニ観察(3)

### ーエゾリンドウー
### (花期：9月中旬～10月上旬)

花は閉じていることが多く、昆虫が来るのか心配になるが、閉じているには理由がある。

山の天候は変わりやすく、うっかり咲いていると、にわか雨が花に入り、花粉を水浸しにして生殖能力を奪われてしまう。花はそれを防ぐためちょっと曇ると閉じるが、頭のいいマルハナバチに受粉を任せているので安心だ。マルハナバチは花びらをこじ開けて入り、蜜を吸う。そして「こんにちは」と出てきた時パチリ。チャンスを狙おう!!　(田中　肇)

「今月の表紙」

田代山山頂（後方は会津駒ヶ岳）

VOL.7　2008.11

## 目　次


01　副理事長あいさつ
つなげよう
はるかな尾瀬から
みんなの自然

02　リレーエッセイ
尾瀬のニホンジカを追って

04　エッセイ　尾瀬好日
尾瀬で学ぶ
尾瀬大好き

06　現地情報
原をわたる風だより
おこじょだより

08　連載コラム
『沼山峠行きバスが出ますよ～』
『尾瀬に魅せられて』

10　トピックスTOPIX
○尾瀬サミット2008を開催しました
○尾瀬学校に対応した尾瀬自然解説ガイド、尾瀬ガイドネットワークの活躍

11　尾瀬ボランティア情報
イベント情報

12　尾瀬保護財団からのお知らせ
寄付のお願い
「友の会」コーナー

# つなげよう はるかな尾瀬から みんなの自然

財団法人尾瀬保護財団
副理事長　佐藤　雄平

この夏、尾瀬国立公園を舞台にした数々のイベントが開催されました。

先ず、当財団をはじめとする尾瀬関係者で構成された、尾瀬国立公園記念事業実行委員会主催による、「尾瀬国立公園記念国際シンポジウム」が、7月18日から20日に新潟県魚沼市で開催され、私も出席してまいりました。国外から参加されたパネリストの方々には、2日間にわたり尾瀬の自然を満喫していただき、貴重な動植物を有する自然環境の素晴らしさと、観光よりも自然保護に重きを置き、保護と利用を両立させている姿に改めて賞賛の言葉をいただき、大変心強い思いがいたしました。

学校が夏休みに入り、福島、群馬、新潟3県の小中学生が、尾瀬を通して環境問題を学ぶ「尾瀬子どもサミット」が、3県の教育委員会などの主催で7月29日から8月1日まで開催されました。写真だけでは決して味わうことができない尾瀬の自然を体験して、子供たちは一回りも二回りも成長できたものと確信しております。私は、報告会において、子どもサミットに参加した子供たちから直接話を聞くことができましたが、「自然を壊すのは一瞬でも、復元するには気の遠くなるような時間がかかることを学んだ」など、自然や環境に対する子供たちの意識が驚くほど高まっていることに意を強くいたしました。

さらに、尾瀬国立公園の誕生から一周年の8月30日と31日の2日間にわたり、常陸宮同妃両殿下の御臨席を賜り、国及び尾瀬国立公園に関係する地元4県・5市町村が一体となって、「平成20年度自然公園ふれあい全国大会」が開催されました。

「つなげよう　はるかな尾瀬から　みんなの自然」の標語の下、全国各地からの約千二百人の参加者は、式典、豊かな自然を体験するエコツアー、環境保全と地域振興の調和を目指したシンポジウム等を通して、自然を守ることと併せて人と自然との豊かなふれあいを推進することの重要性について学ぶなど大きな成果を収めることができました。

私は、「先人より受け継がれてきた自然を守り次の世代に伝えていくことは私どもに課せられた責務」という常陸宮殿下のお言葉をしっかりと胸に刻み、自然保護の原点である尾瀬から全国に向けて発信したことの重さを肌で感じながら、一つ一つの施策をしっかりと推進することを心に誓ったところであります。

一連のイベントの締めくくり、8月31日の「尾瀬サミット2008」では「尾瀬国立公園のこれからについて」を議題に、エコツーリズムの促進、尾瀬の魅力を伝えるガイドの育成、ニホンジカの食害問題などについて活発な意見交換が行われました。御来賓の斉藤環境大臣からは、「尾瀬は自然公園を守るトップランナー。尾瀬国立公園の今後を話し合うことは、日本の自然保護をこれからどうやっていくかの議論である。」とごあいさついただきましたが、これを私たち尾瀬国立公園関係者、尾瀬保護財団への激励と受けとめ、尾瀬の自然保護についての様々な取組みを、より一層推進してまいりたいと思いますので、今後とも当財団の運営に対する皆様の御支援をお願い申し上げます。

# リレーエッセイ

## 尾瀬のニホンジカを追って

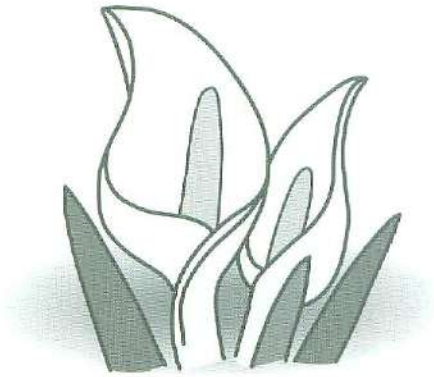
小金澤　正昭

尾瀬高校の生徒諸君と久しぶりに尾瀬ヶ原を歩いてきた。今回は、シカのフィールドサインと夜のライトセンサス調査が主目的である。尾瀬にシカが生息するというショッキングな知らせは、東北大学（当時）の内藤俊彦先生と福島大学の木村吉幸先生の調査からもたらされた。その後、環境庁（現環境省）の依頼を受けて平成9年から宇都宮大学のシカ調査が始まった。現在も環境省のパークボランティアを中心に調査は進められているが、この他に尾瀬高校の理科部、尾瀬自然保護ネットワークも別個に調査をおこなっている。このようないくつものグループの調査によって、尾瀬のシカの実態が少しずつ明らかになってきた。第一には、平成9年からの個体数の経年的変動である。つまり、尾瀬にシカは何頭位いて、増えているのか減っているのかといった問題である。第二に昔はシカがいなかった尾瀬になぜシカが現れたのかといった疑問である。雪の多い尾瀬には冬はシカが棲めないのだから、夏にいたシカは、冬はどこに行っているのか？そもそもなぜ尾瀬にシカがやってきたのか？といった疑問である。

野生動物の数を調べることは、簡単なようで、実は大変難しい作業である。さまざまな方法が考案されているが、尾瀬の場合はさらに厳しい自然条件が加わる。このために通常の方法はほとんど使えない。結論から言えば、夜、木道を歩いて、ライトで照らし、湿原に現れたシカの数を数える方法が唯一であった。通常は、人が山の中を歩いてシカを探し、その数を数える方法（区画法）や糞の数を調べる方法（糞粒・糞塊法）を使うが、尾瀬では踏査自体が困難なために難しい。そこで、苦肉の策とも言える、当面、実行可能なライトセンサスを行うこととした。しかし、この方法も単に周りの森林から湿原に出てきたシカを数えているのだから、調査道具は同じでも通常のライトセンサスとは大きく異なる。しかし、今できることを、そして、少なくとも増えるのか減っているのかを読み取ることはできるかもしれないと考えて始めたものである。平成9年からの10年間の変動をみると、緩やかだが、確実に増加していると読み取ることができる。

尾瀬は、積雪深3ｍを越える多雪地である。一方、シカは雪に弱い動物である。積雪によって冬の食べ物であるササが埋もれてしまうと食べ物がなくなる。さらに雪が深くなると動くこともできなくなる。このような多雪地帯で夏過ごしていたシカは、積雪と同時に、雪の少ない地域へ移動する。このような季節的な移動をする習性は、尾瀬のシカの特徴である。尾瀬から見ると、雪の少ない地域は、東から栃木県の湯西川、南の奥日光、そして群馬県片品村にあたる。冬、奥日光の三岳で捕獲したシカに小型電波発信機を装着し、追跡したところ、雪解けと同時に北上し、夏には燧ヶ岳の北斜面から電波を拾った。そして冬の到来とともに、そのシカは再び奥日光に現れた。つまり、そのシカは尾瀬—奥日光間25kmを行ったり来たりしていたのである。直接的な追跡データは少ないが、ミトコンドリアＤＮＡの研究からは、先にあげた地域への移動が示されている。つまり、尾瀬のシカは、湯西川を越冬地とするグループ、奥日光を越冬地とするグループ、さらには群馬県側を越冬地とするグループに分かれているのである。ところで、実は奥日光がそうであるように、これらの越冬地は、昔からの越冬地ではない点

も注意しなければならない。つまり、尾瀬のシカの越冬地は最近になってできた新しい越冬地なのである。新越冬地の形成要因は、暖かい冬が続いたことにあると考えて良いであろう。まさに地球温暖化が原因となっているのである。これはまた、尾瀬のシカが増えた最大の要因であり、歴史的に見れば、捕食者、すなわちオオカミの絶滅によるシカの個体数制御機能の欠如が背景にあると言える。



筆者紹介

小金澤　正昭（こがねざわ　まさあき）
宇都宮大学農学部教授　附属演習林
専門は野生鳥獣管理学
日光のシカやサルの生態調査を1983年からはじめる。
平成9年からは、尾瀬のシカの個体数の増加と湿原と森林への影響について調査を開始。
最近は、シカの夏毛の白斑を目印に個体識別し、数を推定する方法を院生や学生とともに開発。
著書には、「ニホンザルの自然誌―その生態学的多様性と保全（分担執筆）」東海大学出版会、「オオカミを放つ―森・動物・人のよい関係をもとめて（共著）」白水社、「森林・林業実務必携（分担執筆）」朝倉書店など。

## 卓上式尾瀬フォトカレンダー販売開始

**一般販売価格 1冊500円（友の会会員割引価格 1冊350円）**

御購入方法
① 直接販売：群馬県庁内尾瀬保護財団事務局へお越しください
② 通信販売：財団ホームページから
または、財団事務局に電話・FAX等で依頼
商品送料、代金払込手数料はご負担いただいております。
代金は商品に同封の払込票（ゆうちょ銀行）でお支払いください。
※ 昨年まで販売していました「ぐんま自然環境カレンダー」の2009年版は製作されないことになりましたのでご了承ください。

## 「尾瀬カードをご存知ですか？」

**尾瀬カードは信販会社が当財団と提携し、発行されている「クレジットカード」の名称です。**

オリエントコーポレーション

セントラルファイナンス

このカードを利用された場合、利用額の0.5%相当額がカード会社から当財団へ寄付され、尾瀬の自然を守るための活動に使われます。

加入ご希望の方は、各クレジット会社あるいは尾瀬保護財団「尾瀬カード」担当までお問い合わせください。

エッセイ 尾瀬好日

# 「尾瀬で学ぶ」

群馬県立尾瀬高等学校
自然環境科　星野麻衣

大きなザックを背負い、腕には緑の腕章を付けた、揃い仕度の高校生が尾瀬を歩く姿を目にしたことがあるでしょうか。私たち尾瀬高生は、身近な自然を題材とし、様々な活動を行っています。特に尾瀬には、一年生～三年生まで、授業としての観察・調査実習をはじめ、県内外の小・中・高校生との交流会、専門家の指導を受けての調査活動など、様々な目的で訪れます。

授業や課外活動などでは、尾瀬の動植物や水質について課題を決めて調査しています。例を挙げれば、水質調査は平成11年度から毎年尾瀬ヶ原の水質を調べており、河川と池塘の水の違いや周囲の環境が影響を与える水質の変化などを追っています。尾瀬ヶ原の面積のかなりの部分を占める水に興味を持ち、知ることによって、ただ木道を歩くだけでは分からなかったであろう尾瀬の自然を感じることが出来るのです。また、尾瀬ヶ原やアヤメ平方面の登山道では、ニホンジカの生息数や分布、食べている植物などを調べる調査も実施しています。夜間にビームライトを用いて行うライトセンサス法による調査やフィールドサイン調査を行うのですが、シカだけでなくツキノワグマなど他の動物の痕跡を発見することもあります。そういった、多岐に渡るテーマは、私たちにとって、尾瀬をより深く広く魅力的なものにしてくれている様に感じます。

私たちは、調査や授業等の中で感じた「尾瀬の好きなところ」や「興味をひかれた尾瀬の生態系」などを、交流会などを通して校外の方に伝えます。自分の経験に基づいて「面白い」と思ったことを、自分の言葉で伝達することが出来ることも、とても嬉しく思います。交流会で、普段接する機会の無い方や尾瀬に初めて訪れた方と意見交換をし、自分だけでなく他者の目から見た「尾瀬」をも知ることが出来て毎回新たな発見があるからです。

私たちにとって、学校の教室で学んでいる数学や英語の授業も、もちろん大切で必要なことですが、それと並行して、ありのままのすばらしい自然が溢れる尾瀬に高校生として身近にふれあうことが出来ることを幸せに思い、また誇りに思います。

▲日本生物教育学会（生物の先生方）との交流

▲小学生との交流会

エッセイ 尾瀬好日

# 「尾瀬大好き」

尾瀬ボランティア
清塚　和子（NO.839）

優しさがゆるやかに胸の中にしみてくる大好きな「尾瀬」。新米ボランティアの私ですが、初めて尾瀬を訪れたのは48年前の夏、尾瀬沼をぽんぽん船で渡った時代です。朝もやの中のアヤメ平は幻想的で夢の中にいるようでした。尾瀬ヶ原はオレンジ色の絵の具を流したようにニッコウキスゲが咲き誇り、木道はほとんどが片側だけの一本道、ジャンケンをして譲り合ったものです。素晴らしい尾瀬を満喫出来たことが思い起こされます。ただ、アヤメ平では浮島に乗って遊んだこと、今思い出しても何と愚かなことをと反省しきりです。

尾瀬がこんなに身近になったのは、主人の友であるベテランボランティアの栗原さんの尾瀬病に主人と二人で感染して、仲間に入れていただくことが出来たおかげと、感謝感謝です。

尾瀬は半年もの長い間、雪に閉ざされて眠っています。イワツバメの背に乗って春がやってくると、原の雪も少しずつ融け始めます。さあ、尾瀬の舞台の幕開けです。雪融けの頃、雪原に現れるアカシボ、夕日に映える赤雪は自然が奏でる見事な風景です。雪が消えかけると次は白絹の衣裳を身につけた妖精・ミズバショウ、法衣をまとったザゼンソウ、鮮やかな黄色のリュウキンカ。尾瀬は競い合う花々の舞台に移り変わっていきます。ショウジョウバカマ、イワカガミ、タテヤマリンドウなどなどの小さな花も綺麗に誇らしく咲き、霧の中にゆれるワタスゲは、しっとりとした心豊かな風景です。

夏の原をオレンジ色に変えてしまうニッコウキスゲ、今年は久しぶりに見事な景色とめぐり会えました。短い夏を惜しむかのようにハッチョウトンボがゆっくりと羽を休め、池塘のイモリは金メダリストの康介にも負けじと泳いでいます。

ニッコウキスゲも終わり、秋の気配を感じはじめる、でも花は自分の出番を忘れない。高貴な紫色のサワギキョウ、風に揺れているワレモコウ、花・花、みんな短い季節を精一杯咲いています。気温が下がり赤く染まる草紅葉のほんの一時の華やかさ。池塘のキャンバスに巨匠の描く友禅模様のヒツジグサ、秋の色は激しく燃えて舞台は白一色の静寂の世界へと移っていくのです。

一昨年、三平峠から一ノ瀬への戻り道で、まあるい瞳のオコジョと出会い、かなり長い時間遊んでもらいました。またぜひ逢いたい尾瀬の仲間です。No.19のオコジョ発見証をいただいて大切に持ち歩いています。

微力な私ですが、この素晴らしい尾瀬を、次の世代に残していくためのお手伝いが出来ることを本当に嬉しく思っています。お手伝いとは言いながら、いつもただ主人の後をくっついて行くだけですが、ボランティアの皆さん方は、いつも笑顔で声をかけて下さいます。心からお礼を申し上げます。

▲鳩待峠にて

現地情報

# 原をわたる風だより

## ～尾瀬山の鼻ビジターセンターより～

## 十二山神祭（じゅうにさんじんさい）

研究見本園入口横にひっそりと佇む石碑があるのをご存じですか？

これは、この地方で古くから祭られてきた「十二様」と呼ばれる山の神様なのです。

十二様はきこりなどの山仕事の守り神であり、恵みを与えてくれると共に村人から恐れられてもいました。

晴天に恵まれた9月12日、山ノ鼻地区で登山者の安全を祈願し、十二山神祭が行われました。

当日は一般の方も加わり、つきたてのお餅、きのこ汁、お赤飯などが振る舞われました。

山々に囲まれて澄んだ空気のもと、尾瀬をこよなく愛する人達と一緒に囲んで頂いた食事は格別の味でした。

山だけに限らず、お米や野菜など、大地の恵みで作られた食材に対しても自然と感謝の気持ちがあふれてきました。

自動車が次々に走り、街路樹が肩身狭そうに立つ街中で過ごす日常では、自然に対して感謝する機会が少なくなってきています。

日常生活から離れ尾瀬を訪れた方々が、自然の偉大さに触れ何かを感じとり、日常に戻っても、ふと、自然の大切さを思い出してもらえたらと思います。

（木下　カンナ）

## 「オコジョ」遭遇多発！

今年は6名もの職員が目撃。窓口での発見証明書の発行数も250枚に上りました。今年は、当たり年だったようです。出会った際には、フラッシュを使わないで撮影したり、動画撮影にすると長く観察できるようです。

## ～シーズン後半の尾瀬ヶ原を振り返る

**「ニッコウキスゲ」**

7月中旬～下旬が今年の見頃でした。花の数がここ数年では多く、至仏山からも黄色の帯が見えるほどでした。

**「ゲリラ雷雨」**

8月下旬、不安定な天候が続きました。連日の大雨で尾瀬ヶ原全域が浸水し、一時通行止めになりました。

**「初霜」**

9月11日、花がまだ残っているのに、霜がおりて、とても綺麗でした。

**「草紅葉」**

9月下旬、見る人によって見頃が違うものですが、昨年より早く見頃となりました。

**「初冠雪」**

9月27日、観測史上最も早い初冠雪となりました。紅葉と初雪を両方見ることができました。

**「山ノ鼻～至仏山頂の東面登山道」**

今年から登山者の安全確保と植生保護のため、"上り専用"となりました。しかし、巡回に出た職員が必ずといっていいほど、下りで利用する人に出会いました。

職員が聞いた、下山者の言葉

・計画を今更変更できない。
・上り専用を知らなかった。
・行けるところまで、行きたい。
・忘れ物を山ノ鼻にした。

こうした声もありました。

・東面登山道を下ってきたが、本当に大変な目に遭った。上り専用の掲示の意味がよく分かった。

入山口の看板やホームページなどを通じた、更なる情報の周知が必要だと感じました。

尾瀬保護財団では至仏山の適正な利用の実現に向け、今後も活動を進めていきます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

（秋山　恵美子、吉岡　昌平）

現地情報

# おこじょだより

## ～尾瀬沼ビジターセンターより～

### シーズンを終えて

今年も6ヶ月間の尾瀬沼ビジターセンターと見晴休憩所の勤務を無事に終え、正直ホッとしております。相部屋・自炊の集団生活では、同僚のことがしだいに家族のように思え、尾瀬の変化に一喜一憂していた毎日を懐かしく思い出します。みなさんにとって今シーズンの尾瀬の思い出はどんなものでしょうか？これからも尾瀬の良さを伝える仕事を続け、より一層充実させていきたいと考えておりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いします。

（安類　智仁）

### 尾瀬での出会い

5月上旬ビジターセンターに勤務してから、窓口での出会い、館内での出会い、観察会・巡回といった屋外での出会い等、多くの人たちと知り合うことができました。いくつかの出会いを思い出してみます。

嬉しい出会いはビジターセンターに訪れた方に笑顔が戻る時です。貴重品等の紛失、迷子、道の案内、お花の説明等多岐にわたっていますが、ビジターセンターで解決出来た時は笑顔で「ありがとうございます」と言って去っていきます。

逆に辛い出会いもありました。電話等でケガ人、病人の知らせがあり、現地に急行してケガ、病気の様子を把握し、無線で救助隊に連絡し、短時間に最善な方法を考えなくてはなりません。人手による担架搬送の後、ヘリコプター、救急車に引き渡してひと安心です。後日搬送した方から、丁重なお礼状を頂くことも多くあります。

今後も尾瀬での貴重な出会い、経験等を大切にしていきます。

（須山　豊治）

### 尾瀬沼ビジターセンター ～思い出ノート～

2006年から綴られた「思い出ノート」は5冊目となりました。尾瀬を訪れた方々の「思い」が書かれています。「思いを馳せ、ようやく辿りついた尾瀬に感無量。」「夢が叶った」「旅の途中…で、」と喜びが多く載せられています。原稿を書いている私自身も、「尾瀬の四季をみてみたい」という思いつきのような漠然とした夢が叶いました。

日々、めまぐるしく変化する尾瀬の自然を前にすると、日頃言葉に出せない「思い」を誰かに伝えたくなるのでしょう。おそらく、このノートを手にされた方も同じではないでしょうか。家族、友人に宛てた尾瀬からの手紙。尾瀬を吹き抜ける風にのせ運んで欲しいものです。

尾瀬を、自然を、人を大切に…　そんな気持ちも湧いてきます。

（上田　陽子）

### 新天地・見晴へ

尾瀬のシーズンは、駆け足で過ぎて行きます。雪融けが、つい昨日のように思えてなりません。そんな「アッ！」という間に感じられる尾瀬ですが、ここ見晴休憩所はビジターセンターよりひと足お先に、10月19日でシーズンを終え、閉館となりました。今は写真のように雪囲いを施され、来たる長い冬に備え静かにたたずんでいます。沢山の思い出を残してくれた尾瀬、これから根雪を向かえる約半年、来シーズンもまた皆様にお会いできるのを楽しみに、眠りにつきます。

（西口俊一）

### 沼人（ぬもうど）の本音

尾瀬沼のほとりで暮らす尾瀬沼人、通称沼人たちの本音。最終回のテーマは『好きな植物は？』です。

**ニッコウキスゲ**
●誕生日が7月なので祝ってくれているようだから。シカが食べないといいなあ。（Tさん）

**ギョウジャニンニク**
●健康によさそう。（Aさん）※尾瀬では採取できませんが、地元ではよく食べられています。

**タテヤマリンドウ**
●きれいだから。（Hさん）

**チューリップ**
●自宅前に毎年咲いとったんです。ああ、春が来たなあと嬉しくなりました。（Sさん）

**チングルマ**
●沼尻で木道脇にかわいらしく咲いている姿が気に入っています。（Iさん）

**ブナ**
●尾瀬沼にはないから（Kさん）

**トキソウ**
●ランはあまり好きではないけれど、すっかり緑になった湿原でひっそり楽しんで咲いているようなところが微笑ましく思えます。チングルマ、イワショウブ等も好きです。（別のKさん）

尾瀬沼で見られるもの、見られないもの、さまざまです。人それぞれ理由も違いますが、普段話せない山小屋で働く方の本音を少しでも聞くことができ、嬉しくなりました。

（小山　抄子）

■連載コラム

# 『沼山峠行きバスが出ますよ～』

尾瀬から学ぶスローライフ

取材協力＝猪俣　庄造（福島県南会津郡南会津町）

「沼山峠行きバスが出ますよ～」と南会津独特の言い回しで会津乗合自動車（通称会津バス）の運転手さんが、御池駐車場で出発準備をしている登山者に呼びかけました。「待って、待って」と言いながらバスに乗り込む登山者に、運転手さんは「そんなに焦らなくてもいいですよ～」と和やかに話してくれます。

尾瀬の福島県側の玄関口である沼山峠は、通年で交通規制が行われているため、全ての登山者は会津バスに乗り換え、沼山峠へと向かいます。そんなシーズン中、休むことなく運行している会津バスのみなさんにお話を伺いました。

▲会津バスに乗り込む登山者

## 地域に支えられて運行

「主に会津バスは会津若松を中心に会津地方各地で運行していますが、私が初めて尾瀬の輸送に携わった平成5年は今のような交通規制が行われておらず、たくさんの観光バスやマイカーが沼山峠まで入れる状態でした。その時は檜枝岐村の職員と私たちとで交通整理や駐車場誘導などを行っていました。明け方から作業が始まり、朝食を食べようとすると、次の人の波が押し寄せ再び作業したりと、気づくと1日中何も食べていない事もありました。他の管内の職員にも応援を要請し、尾瀬に行くとご飯が食べられないと評判でした」と、田島営業所長の猪俣さんは当時を懐かしく振り返ってくれました。

## 御池～沼山峠の案内マニュアル

沼山峠の交通規制がだんだんと充実してゆくにつれ、猪俣さん達が行ってきた交通整理は少なくなりましたが、別の課題が出てきたそうです。

▲車窓から見えるブナ平。新緑と紅葉は絶景

「ほとんどの登山者が会津バスを使って入下山するので、バラバラに入下山する登山者を送るのに、どれくらいのバスを待機させればいいかが頭痛の種ですね。最大で20台のバスが無線でやり取りしながら安全でスムーズな運行をできるよう心がけています」と猪俣さん。実はこの区間についての運行マニュアルがあるのだといいます。

「まずは安全第一ですので、御池から沼山峠の9.8km区間ですれ違い可能な所に地名を付け、バス同士のやり取りを工夫しています。また、尾瀬に来た方がまた来たいと感じてくれるよう、眺めの良いブナ平では徐行運転し、乗務員がひと言解説するような研修を行っています。乗務員も登山者から尾瀬の事を聞かれることが多いので、社員の中には燧ヶ岳や会津駒ヶ岳に実際に登っている者もいるんですよ」と話す猪俣さん。

▲御池への帰りのバスから見える燧ヶ岳

## 案内を充実させたい

猪俣さんに今後の目標について伺うと、「今は話し好きな乗務員とそうでない者とで案内に差がありますが、私たちも尾瀬の登山者を迎える一人として、案内を充実させていきたいですね」とさわやかな笑顔で答えてくれました。登山者のみなさんが最初に出会う尾瀬の人が会津バスさん達かもしれません。次回の尾瀬登山では、そんな尾瀬の様子もごらんになってください。

▲会津バスのみなさん「御池でお待ちしています」

**会津乗合自動車（株）**
（南会津町中荒井字泊窪下108-1）
■問合せ先
0241-62-0134
■URL
http://www.aizubus.com/

■連載コラム　『尾瀬に魅せられて』

## 続・山小屋主が語る尾瀬の秘話

取材協力＝尾瀬林業株式会社尾瀬戸倉支社（群馬県利根郡片品村）

牛首分岐、竜宮十字路から歩き、風情醸し出すヨッピ吊橋を渡ると、そこはヨシッ堀田代。ここには、高台があり、そこから眺めることができる雄大な至仏山は多くの人々を魅了してきました。そんなヨシッ堀田代にある東電小屋で支配人をしている鏑木文明さんにお話を伺いました。

### 尾瀬が本当に好きだったから

「小学生の頃からアヤメ平をはじめ、尾瀬をよく訪れていました。尾瀬にはたくさんの思い出があり、尾瀬のことが本当に好きだったからこそ、尾瀬で働こうと思ったのです」と、鏑木さんは東電小屋の食堂の窓から見える、黄金色に輝くヨシッ堀田代の草紅葉を眺めながら、話をはじめてくれました。

「尾瀬林業観光株式会社（現：尾瀬林業株式会社）の社員として、昭和46年に大清水休憩所に勤務したのが尾瀬での仕事の始まりです。19歳の時でした。当時は、大清水登山口は多くのハイカーで賑わっていて、仕事はとても忙しく、今とは違い住み込みで働いていました。尾瀬号の到着する土日曜日は寝ないで働いていたこともありましたね」と、当時の様子を思い出しながら、話を続けてくれました。

「大清水休憩所の3年間の勤務を経て、昭和49年から尾瀬沼山荘で山小屋での仕事が始まりました。大清水休憩所の勤務がとても忙しかったので、山小屋の仕事だから大変ということはありませんでした。夏になると、コマクサが見たくて、燧ヶ岳に一週間連続でチャレンジするなどして、楽しい時間も多かったです」

### 東電小屋での思い出

今シーズンから、三度目の東電小屋の支配人をされている鏑木さんに、東電小屋での思い出を伺いました。

「東電小屋での思い出は、何と言っても、昭和50年代に初めて東電小屋の支配人になった頃、お客さんが非常に多かったということです。一日400名以上の宿泊者がいましたので、食事の時間は大変でした。食堂の定員が88名でしたので、6回に分けて食事を取っていただいていました。順番を待つお客さんが、二食券（夕食・朝食の食券が一枚になったもの）を握りしめ、食堂入り口脇にある階段にずらっと並んで席が空くのを待ちわびていたような状況でしたので、食堂の中のお客さんはゆっくり食事ができなかったでしょうね。夕食で言うと、4時半に初回のお客さんが食べ始め、最後のお客さんが食べ終わると8時になっていたこともありましたね」

▲ヨシッ堀田代と東電小屋

### 尾瀬を楽しむ秘訣

"コースタイム＋30分"

尾瀬各地で山小屋の支配人の経験を持つ鏑木さんに、尾瀬の楽しみ方のアドバイスをいただきました。

「尾瀬はゆったりと味わって、楽しんでほしい。最近では、日帰りのお客さんが多いが、山小屋に泊まって、朝夕の尾瀬の景色を見て、本当の尾瀬を味わってほしい。そして、尾瀬を歩く時は、"コースタイム＋30分"を心がけてみてください。私は、そういった歩き方をしてこそ見えてくる尾瀬が一番好きです」

東電小屋では、宿泊者を対象に、2階展示室で、尾瀬の自然や花などについての自然解説を行っているそうです。鏑木さん自らが自然解説することもあり、今までの経験・体験談を交えて、尾瀬の本当の素晴らしさを伝え続けていらっしゃいます。

▲自然解説をする鏑木さん

▲小屋前の鏑木さん

**東電小屋**

（魚沼市）

■問合わせ先
0278-58-7311

■宿泊料金
1泊2食　8,500円

■営業期間（例年）
5月中旬～10月中旬

■URL
http://www.welcome-to-oze.com/

## 尾瀬サミット2008を開催しました

尾瀬国立公園の誕生から、1年が経過した平成20年8月31日（日）、福島県檜枝岐村の御池ロッジにて、尾瀬に関わる多くの関係者が一同に会し、来賓として斉藤鉄夫環境大臣を迎え、「尾瀬サミット2008」が開催されました。大澤理事長は「帝釈・田代山、会津駒ヶ岳など拡張地域の今後の管理、クマ対策やシカなどの食害対策、利用分散化など、尾瀬を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。しかし、尾瀬にはマイカー規制、ごみ持ち帰り運動など様々な対策を関係者、地域が一体となり、全国に先駆けて実践してきた誇るべき歴史があります。二十一世紀に誕生した新しい国立公園にふさわしい将来像を描いていきたい」とあいさつしました。

その後、尾瀬におけるシカの問題やエコツーリズム、尾瀬認定ガイド制度等についての活発な意見交換が行われました。

▲サミットで挨拶をする大澤理事長（左隣が斉藤環境大臣）

## 尾瀬学校に対応した尾瀬自然解説ガイド、尾瀬ガイドネットワークの活躍

「小中学生の間に一度は尾瀬に」というテーマで、今年度から始まった群馬県の「尾瀬学校」。自然保護の原点とされる尾瀬において、ガイドを伴った少人数のグループによる質の高い自然体験を通して、身近な自然を守ることの大切さ、ひいては地球環境を守ることの大切さを学び、子どもたちに自然保護への理解を深めてもらうことが目的です。

5月に最初の学校が実施して以降、10月までの間に、多くの子どもたちが尾瀬を訪れました。尾瀬で質の高い環境学習を体験してもらうには、ガイドの力が欠かせません。当財団の尾瀬自然解説ガイドをはじめ、尾瀬ガイドネットワークに加盟しているガイドが、子どもたちを案内しました。子どもたちは、目に映る花、動物、風景に新鮮な感動を覚え、ガイドの話す尾瀬の自然の成り立ち、環境保護への取り組みなどを熱心に学び、尾瀬という環境学習に最適なフィールドで、多くのことを学ぶことができたようです。この取り組みは、これからの尾瀬、そして地球環境の保全の担い手になっていく未来ある子どもたちの環境への意識を高めさせ、いつまでも美しい尾瀬を残していく礎になったに違いありません。

▲尾瀬学校で子どもたちに自然解説を行う尾瀬ガイドネットワークのガイドたち

# 尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

**●活動情報**

10月26日の至仏山東面登山道の柵撤去作業で今シーズンの活動もすべて終了し、尾瀬はこれから長い冬に入ります。

来シーズンも尾瀬を楽しみながら保護と適正利用を啓発し、美しい尾瀬を守るために活動していただけるよう対応していきたいと思います。今年一年本当にありがとうございました。

ボランティア総会については、毎年2月から3月に開催していますが、詳細につきましては別途お知らせいたしますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

《今シーズンの活動風景》

▲至仏山東面登山道踏み込み防止柵撤去作業
(実施日 H20.10.26)

**●尾瀬ボランティアが財団法人コカ・コーラ教育・環境財団の「第15回コカ・コーラ環境教育賞」を受賞しました。**

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、教育の支援、スポーツの振興、環境教育の啓発支援などの社会貢献活動を行う団体で、コカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を行うことにより環境教育や環境保全活動を促進することを目的として設けられています。今年は、尾瀬ボランティアの皆さんが行ってきた活動が認められ、第15回の環境教育主催者賞を受賞いたしました。

9月1日に尾瀬保護財団事務局において、この賞の表彰状と記念品（図書券1万円分）を尾瀬ボランティアを代表して栗原洋三さんに受けとっていただきました。

今回の受賞は、尾瀬ボランティアの団体として初めての賞です。

なお、表彰状はビジターセンターに写しを、事務局に原本を掲示させていただきました。また図書券につきましては、ボランティア活動の役に立つ本などを購入したいと思います。

# イベント情報

## 第10回「尾瀬フォーラム」

○開催日
平成20年12月19日（金）
午後2時15分～午後4時30分

○会場　高崎シティーギャラリー
（群馬県高崎市高松町35－1）

○講演　「尾瀬の花のふしぎと魅力を探る」
田中 肇 氏
（フラワーエコロジスト）

※参加無料、申込は財団事務局まで

## 第13回NHK「わたしの尾瀬」写真展

■高崎展

○開催期間
平成20年12月19日（金）～24日（水）
午前10時～午後6時
（19日は午後1時から
24日は午後3時まで）

○会場　高崎シティーギャラリー

■前橋展

○開催期間
平成21年1月15日（木）～21日（水）
午前9時～午後5時
（15日は午後1時から
21日は午後3時まで）

○会場　群馬県庁県民ホール
（群馬県前橋市大手町1－1－1）

※高崎展及び前橋展いずれも入場無料

※前橋展終了後、福島県内や新潟県内等で写真展を順次開催予定

## 寄付のお願い

**尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。**

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策やビジターセンター等の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に努めています。

■企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

| 種　類 | 条　件 | 特　典 |
|---|---|---|
| 特別協賛寄付 | 3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付 | ①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載<br>②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は1年間使用 |
| 協賛寄付 | 3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付 | ①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載 |

■寄付をいただいた皆様にこの財団機関誌「はるかな尾瀬」を所定の期間お送りします。
■尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は税の優遇措置を受けられます。
■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）に御来訪いただくか、財団に御連絡をいただいた上、右の口座にお振込をお願いいたします。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 福島県 | 東邦銀行県庁支店 | 普通 | 1078095 |
| | 福島銀行本店営業部 | 普通 | 0590088 |
| | 大東銀行福島支店 | 普通 | 1287138 |
| 群馬県 | 群馬銀行県庁支店 | 普通 | 0515428 |
| | 東和銀行本店営業部 | 普通 | 0975531 |
| 新潟県 | 第四銀行県庁支店 | 普通 | 1182791 |
| | 北越銀行県庁支店 | 普通 | 0199366 |
| | 大光銀行新潟支店 | 普通 | 0837334 |

### 特別協賛寄付者の御紹介

※五十音順、敬称略

**株式会社群馬銀行**
尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として152万円余りを御寄付いただきました(2008年6月9日)。昨年に続き、今回が2回目のご寄付となります。
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

**ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社**
尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として443万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が2回目のご寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

**株式会社第四銀行**
尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として115万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が2回目のご寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

**株式会社東邦銀行**
尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として137万円余りを御寄付いただきました(2008年6月6日)。昨年に続き、今回が2回目のご寄付となります。

**利根郡信用金庫**
尾瀬国立公園誕生記念定期預金「尾瀬のなかま」より284万円余りを御寄付いただきました。(2008年5月2日)
寄付者からのメッセージ：今回の寄付金が尾瀬の優れた自然環境の保全に有効に活用されることを期待しております。お預け入れいただいた多くのお客様におかれましては、地域の自然環境保護に対し、ご理解、ご支援いただきまして誠にありがとうございました。

**新潟証券株式会社**
尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として37万円余りを御寄付いただきました(2008年6月11日)。昨年に続き、今回が2回目のご寄付となります。
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

Natural Cosmetics
Sanders Perry

**サンダース・ペリー化粧品製造元　株式会社ネイチャーズウェイ**
**化粧品１本に付き３円を積み立ててきた基金より100万円の御寄付をいただきました。(2008年５月19日)**
寄付者からのメッセージ：当社は創業35周年を向かえました。「３円から始まる環境保護活動」として、はじめは小さな一歩ですが私たちの活動を見守っていただいている多くのお客様のご支持を得て、大きな活動に育てていきたいと願っています。

## 協賛寄付者の御紹介

※五十音順、敬称略

**尾瀬山小屋組合**
尾瀬保護財団設立当初から毎年、御寄付をいただいております。今回は22万円余りを御寄付いただきました(2007年12月11日)

**共和工業株式会社**
尾瀬保護財団の活動に賛同いただき、今回の御寄付を含め３年間、毎年10万円の御寄付の申込をいただきました。(新潟県三条市　2008年５月22日)

**群馬県庁福利厚生事務協力会**
財団の活動に対し、50万円の寄付金をいただきました。(2007年10月31日)

**社団法人日本損害保険代理業協会**
尾瀬国立公園記念式典とPRイベントで使ってほしいということで100万円の御寄付をいただきました。(2007年９月18日)
また、地球環境保護活動の一環として設立されたグリーン基金より尾瀬の自然保護の支援として平成20年度から５年間、毎年20万円のご寄付をいただくことになりました。(2008年６月27日初回)。

**株式会社　ロッテ**
平成13年より毎年20万円の御寄付をいただいています。今年も御寄付をいただきました。(2008年２月29日)

## 協賛寄付者(機材)の御紹介

※敬称略

**パタゴニア日本支社**
春先、晩秋のビジターセンター職員の活動用、冬季の除雪作業用としてダウンジャケット、ダウンセーター計30着を御寄付いただきました。(2007年12月)

## その他の寄付

※敬称略

前号でのご紹介に加え、株式会社ニチネンから御寄付をいただきました。ありがとうございました。

---

## 『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

**年会費**

| | | |
|---|---|---|
| ○個人会員 | 1口 | 2,000円 |
| ○ユース会員(その年度始に22歳以下 | 1口 | 1,500円 |
| ○家族会員(個人会員と同居の家族) | 1口 | 1,500円 |
| ○賛助会員(団体・法人) | 1口 | 10,000円 |

**☆会員期間について**
会員期間は、４月１日（あるいは会費をいただいた日）から翌年３月31日（年度末）までです。

**☆新会員制度について**
尾瀬保護財団では新しい会員区分としてユース会員と家族会員をはじめました。是非、ご活用ください。
ユース会員の特典は個人会員と同じです。家族会員は会員証、バッチは会員数分お送りしますが、機関誌・ガイド類は一家庭分取りまとめて１冊お送りします。お友達、ご家族にも是非、「友の会」をご紹介ください。
※賛助会員の特典は平成20年度から機関誌のみとなりましたのでご了承ください。

**☆卓上カレンダー配布の廃止について**
卓上カレンダーについては平成20年度より配布がなくなりました。なお、通信販売は11月より行います。(友の会会員の割引もあります)。

**☆平成20年度新規加入の方への会員バッチの送付について**
お待たせしました。平成20年度の新規会員の方にお送りしています。

**☆メールクラブのご案内**
「友の会」会員を対象に、登録をいただいた方に尾瀬の「旬な情報」をメールにてお送りする「めーるクラブ」を行っています。是非、ご利用ください！！（登録は財団ホームページから）

---

## 編集後記

今シーズンの尾瀬は幕を閉じました。私自身のことを思い出してみると、財団勤務の初年度、尾瀬での仕事も多く、いろいろな角度から尾瀬を感じることができました。その思い出たちは、皆様との一つ一つの出会いがあったからこそ、より輝かしいものになったと思っています。財団ではすでに来シーズンに向けての準備が始まっています。また来シーズン、春の息吹とともに雪解けが進む尾瀬でお会いしましょう！！（小）

みんなの尾瀬を
みんなで守り
みんなで楽しむ

「尾瀬ビジョン」基本理念

はるかな尾瀬

財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2008.11 平成20年11月14日発行
発行所:財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL.027-220-4431/FAX.027-220-4421
E-mail info@oze-fnd.or.jp ホームページアドレス http://www.oze-fnd.or.jp

本誌は、尾瀬の木道をリサイクルした再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。